

県立病院の運営について

令和 6 年 9 月 17 日
病院局

Contents

Chapter01 病院事業の概要等

県立病院の概要	03
病院事業方針	04

Chapter02 令和6年度病院局主要事業

医療の質の更なる向上	05
変革する医療への的確な対応	13
収支構造の最適化	15
運営基盤の強化	19



県立病院の概要

役割

- ① 全県や2次医療圏域内の拠点病院としての高度専門・特殊医療を中心とした政策医療の提供
- ② 県立病院の他に中核となる医療機関がない地域における地域医療の確保

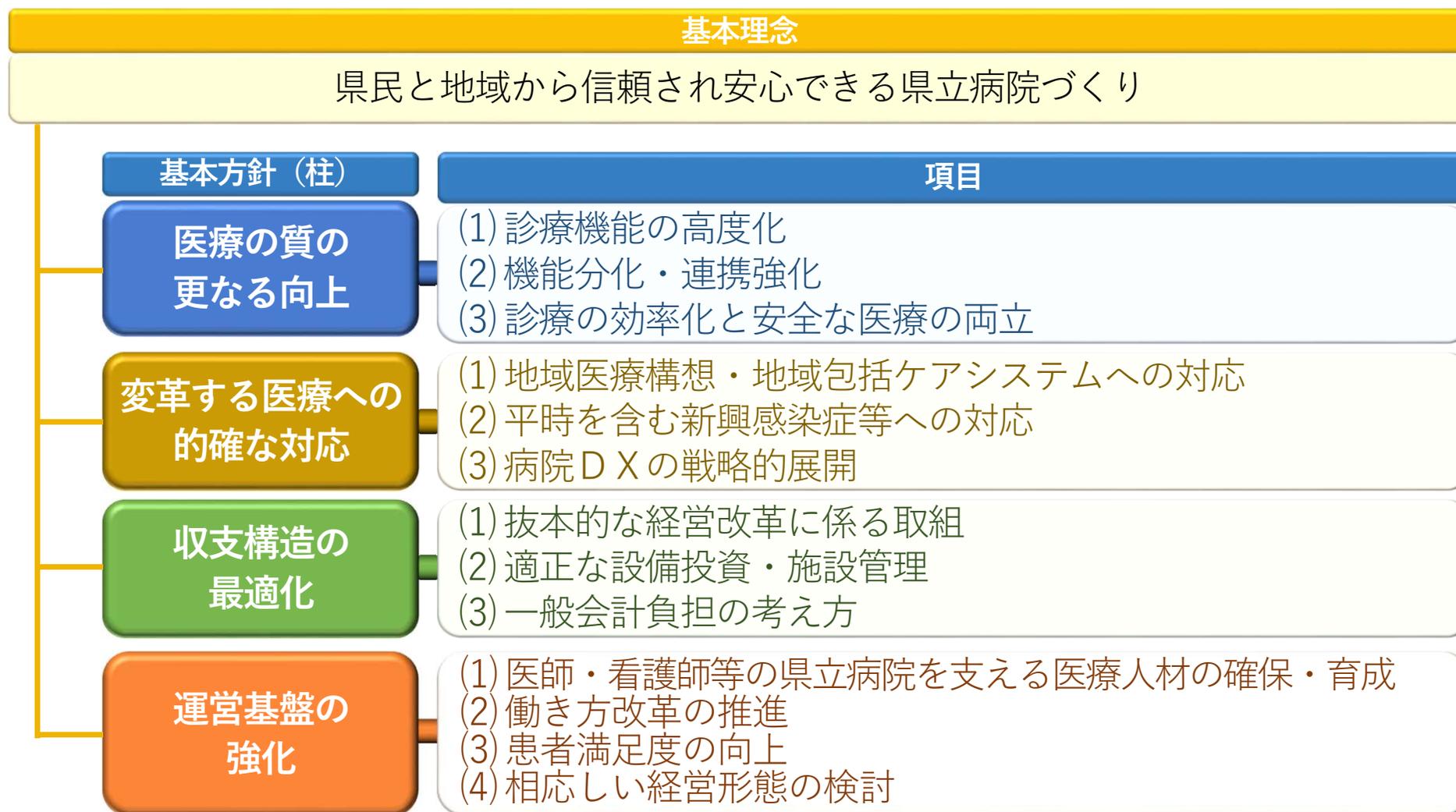
区分	病院名	病床数	所在地	備考	
総合病院	尼崎総合医療センター	730	尼崎市	H27.7 旧塚口病院と統合し開院	
	西宮病院	400	西宮市	R8 西宮中央市民と統合再編予定	
	加古川医療センター	353	加古川市	第一種・第二種感染症指定医療機関	
	はりま姫路総合医療センター	736	姫路市	R4.5 製鉄記念広畑病院と統合し開院	
	丹波医療センター	320	丹波市	R4.4 回復期リハ病棟運用開始	
	淡路医療センター	441	洲本市	淡路島内唯一の公立病院かつ中核病院	
専門病院	精神	ひょうごこころの医療センター	254	神戸市北区	県内唯一の公立単科精神科病院
	小児	こども病院	290	神戸市中央区	小児中核病院、H28ポートアイランドへ移転
	がん	がんセンター	360	明石市	R9 現地建替整備予定
	粒子線による がん治療	粒子線医療センター	50	たつの市	2種類の粒子線治療が可能な世界初の施設
		粒子線医療センター附属 神戸陽子線センター	-	神戸市中央区 (こども病院に隣接)	こども病院と一体となった小児がんへの対応
	高度救命救急 ・災害医療	災害医療センター	30	神戸市中央区	全国初、自治体設立の災害医療センター
	リハビリ	リハビリテーション中央病院	330	神戸市西区	R3.4～スポーツ医学研究センター開設
リハビリテーション西播磨病院		100	たつの市	県西部のリハビリテーション医療を牽引	
合計		4,394		-	

令和6年度 病院局主要事業

病院事業方針

病院事業では、医療を取り巻く環境の変化や前方策の点検評価から見えた課題に的確に対応するため、令和6年3月に、新たに第5次病院構造改革推進方策を策定した。

第5次病院構造改革推進方策に掲げる基本理念である「**県民と地域から信頼され安心できる県立病院づくり**」を実現するため、4つの基本方針に沿って事業を展開していく。



I. 医療の質の更なる向上

1 診療機能の高度化

各病院の役割や地域の医療提供体制を踏まえ、必要な医療機器や診療機能・体制を整備・構築し、県民・地域から必要とされる高度専門・特殊医療を提供する。

(1) がん医療

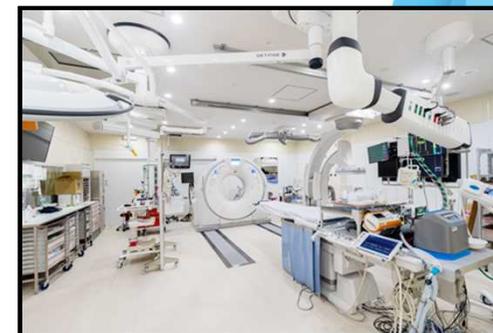
- ① 「兵庫県がん対策推進計画」等で定められる役割や地域の医療提供体制を踏まえ、関係機関と連携しながら、集学的治療や緩和ケアの提供等、**高度専門的かつ各患者に最適ながん医療を提供**する。
- ② がん診療連携拠点病院において、人材育成や相談支援等の機能強化に取り組む。
- ③ がんゲノム医療拠点病院等において、がんゲノム医療を推進する。
- ④ 神戸陽子線センターにおいて、粒子線医療センターや隣接のこども病院と連携し、全ての世代の患者に対して身体への負担が少ない粒子線治療を提供



(2) 循環器疾患医療

- ① 「兵庫県循環器病対策推進計画」や地域の医療提供体制を踏まえ、循環器疾患の急性期医療機関として、発症後早期に**高度専門的な循環器医療を提供**する。
- ② 尼崎総合医療センター及びはりま姫路総合医療センターにおいて、低侵襲でより安全な治療の提供が可能となるハイブリッド手術室を活用したカテーテル治療を行う。

【ハイブリッド手術室（姫路）】



I. 医療の質の更なる向上

06

(3) 糖尿病医療

- ① 「兵庫県保健医療計画」で定められる役割及び地域の医療提供体制を踏まえ、**専門的な糖尿病医療を提供**する。
- ② はりま姫路総合医療センターの糖尿病・内分泌センターにおいて、地域の医療機関等と連携を図り、心疾患等の合併症を有する患者への治療を提供する。

(4) 精神医療

- ① ひょうごこころの医療センターにおいて、**精神科の急性期・救急医療、児童思春期医療、アルコール依存症等への専門治療を充実・提供**するとともに、地域の関係機関との連携により地域移行を促進する。
- ② 精神科身体合併症病床を有する、尼崎総合医療センターや、はりま姫路総合医療センター等と連携し、**身体合併症患者への対応強化等**を推進する。

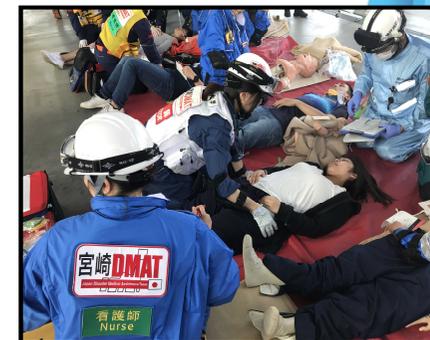
【児童思春期センター（こころ）】



(5) 救急・災害医療

- ① 本県のどこにいても急傷病時に安心して診療を受けられるよう、災害医療センターを中心に、**2次、3次救急医療の提供・充実**を図る。
- ② 基幹災害拠点病院である災害医療センターは、阪神・淡路大震災の教訓・経験を踏まえ、救急・災害医療従事者への研修を行い、広域的な救急・災害医療の充実に貢献する。

【DMAT養成研修（災害）】



I. 医療の質の更なる向上

07

(6) 小児・周産期医療

- ① 小児救命救急センター、周産期母子医療センター等の指定病院を中心に、安心して産み子育てできる兵庫の実現を医療面から支えられるよう、**高度専門的な小児・周産期医療を提供**する。
- ② 尼崎総合医療センター及びこども病院は、小児救命救急センターとして重篤な**小児救急患者を24時間体制で受け入れる**とともに、医師、看護師等に対する小児救急医療の臨床教育を実施する。

【新生児集中治療室（こども）】



(7) へき地医療

へき地診療所等への医師派遣や、へき地医療を担う若手医師への研修・指導、遠隔医療等を行い、**へき地における医療維持、医師の養成・派遣**に貢献する。

(8) 新興感染症等医療

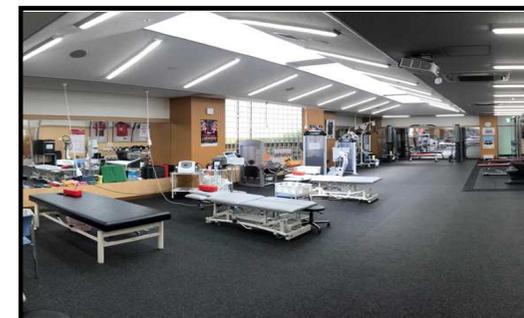
新型コロナウイルス感染症拡大下において県立病院が果たしてきた役割や経験・教訓等を踏まえ、新興感染症流行時に全県民が必要な医療を受けられるよう、「兵庫県感染症予防計画」に基づき、**重症患者等を中心とした患者の受け入れ**を確実に遂行する。

I. 医療の質の更なる向上

(9) リハビリテーション医療

- ① リハビリテーション中央病院及び西播磨病院は、県内のリハビリテーション医療の中核病院として、**安全で質の高い先導的なリハビリテーション医療の提供・充実**に取り組む。
- ② スポーツ立県ひょうごの実現を医療面から支えられるよう、疾患に沿って適切な診断、高度な治療・リハビリテーションを提供する。

【スポーツ医学診療センター（リハ中）】



(10) 臨床研究

- ① 県立病院の医療水準や医薬品等の安全性の向上を図るため、受託研究や臨床研究等を推進するとともに、研究支援体制の充実に取り組む。
- ② はりま姫路医療センターにおいて、兵庫県立大学先端医療工学研究所等と連携し、臨床研究や新しい医療機器の開発を推進する。

〈県立病院で実施し実用化に至った臨床研究例〉

病院	試験概要
尼崎	進行・再発肺がん患者を対象に、ニボルマブ、ベバシズマブ及びカルボプラチン等の治療薬の併用投与の効果を検証する共同試験に参画
がん	化学療法後の進行卵巣がん患者を対象に、維持療法（再発抑制）として抗悪性腫瘍剤オラパリブを投与した効果を検証する共同試験に参画

1. 医療の質の更なる向上

2 機能分化・連携強化

- ① 各病院が担うべき役割や機能を明確にし、**他の医療機関との役割分担・連携**のもと、政策医療を効果的かつ効率的に提供する。
- ② 医師等の派遣やICTを活用した診療情報連携や遠隔医療、医療機器の共同利用等の推進により、他の医療機関や関係機関との連携強化を推進する。
- ③ **西宮総合医療センター（仮称）、がんセンターの建替整備を着実に進め**、高度専門・特殊医療の更なる充実等に取り組む。

項目		尼崎	西宮	加古川	姫路	丹波	淡路	こころ	こども	がん	粒子線	陽子線
紹介率 (%)	R4	71.3	102.8	91.0	75.7	69.3	77.5	82.3	84.9	97.7	100.0	100.0
	R5	76.7	102.7	88.3	77.1	72.0	79.8	86.0	86.2	97.5	100.0	100.0
逆紹介率 (%)	R4	90.8	106.8	78.9	81.9	105.2	73.6	38.9	66.3	79.1	100.0	100.0
	R5	101.4	79.0	85.5	75.7	117.7	81.0	34.5	73.4	65.2	100.0	100.0

※紹介率 = (紹介患者数 + 救急患者数) ÷ 初診患者数 (救急患者除く) × 100

逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ 初診患者数 (救急患者除く) × 100

〈遠隔医療の取組例〉

概要	参加病院
遠隔医療教育ネットワークによるTVカンファレンス	尼崎、丹波、公立豊岡、神戸大学等
テレビ会議システム等を活用したがんサワーボード	がん、こども、粒子線、陽子線
こども病院及び地域中核病院の医師による遠隔診療	こども、丹波、淡路、公立豊岡
遠隔病理診断ネットワークによるカンファレンス	淡路、神戸大学、長崎大学等

【TVカンファレンス（尼崎）】



I. 医療の質の更なる向上

(1) 西宮総合医療センター（仮称）の整備

県立西宮病院と市立中央病院を統合再編し、西宮市域及び阪神圏域における中核的な医療機関として、**高度急性期・急性期医療を担う新病院**整備を推進する。

整備概要

- 整備場所：西宮市津門大塚町（アサヒビール西宮工場跡地）
- 延床面積：約56,500㎡
- 病床数：552床

救命救急センター	20床
地域周産期母子医療センター	16床
集中治療病床	20床
精神病床	8床
その他高度急性期・急性期病床	488床
- 診療科目：35科
- R6当初予算額：152.8億円（全体事業費 約561億円）
- スケジュール：R5～R8年度：建設工事・開院

主な機能

- ・西宮市域及び阪神圏域における高度急性期・急性期医療を担う中核的な医療機関としての機能を充実
- ・阪神南部の救命救急センター等との役割分担と連携を考慮しながら救急医療体制を充実
- ・医師等医療従事者に対する育成・研修機能を充実

(完成予想図)



1. 医療の質の更なる向上

11

(2) がんセンターの建替整備

均てん化が進む中でも、県内がん医療のリーディングホスピタルとして最先端の高度ながん医療を提供するとともに、**がん患者の最後の砦となる専門病院**として整備する。

整備概要

- 整備場所：現地建替（明石市北王子町）
- 延床面積：約41,000㎡
- 病床数：360床

一般病床	333床
緩和ケア病床	15床
集中治療病床	12床
- 診療科目：23科
- R6当初予算額：108.8億円（全体事業費 約428億円）
- スケジュール：R5～R9年度：建設工事・開院

主な機能

- ・ がん診療におけるリーディングホスピタルにふさわしい最先端のがん医療の提供や、医療機関に対する教育・研修等を実施
- ・ 粒子線医療センターや神戸陽子線センター、こども病院、その他地域医療機関と綿密に連携し、総合的ながん医療の充実を図る
- ・ がん医療相談体制の充実をはじめ、治療と仕事の両立支援の強化や学校でのがん教育への協力など、社会的支援を積極的に実施



1. 医療の質の更なる向上

3 診療の効率化と安全な医療の両立

(1) 診療機能の効率化

- ① 医療の標準化・効率化等を図るため、**クリニカルパスの充実**や適用率の向上、**P F Mの推進**等に取り組む。
- ② 専門センター制の導入や、多種多様な医療スタッフが協働して患者の状況に的確に対応する**チーム医療を推進**し、良質な医療を効果的かつ効率的に提供する。

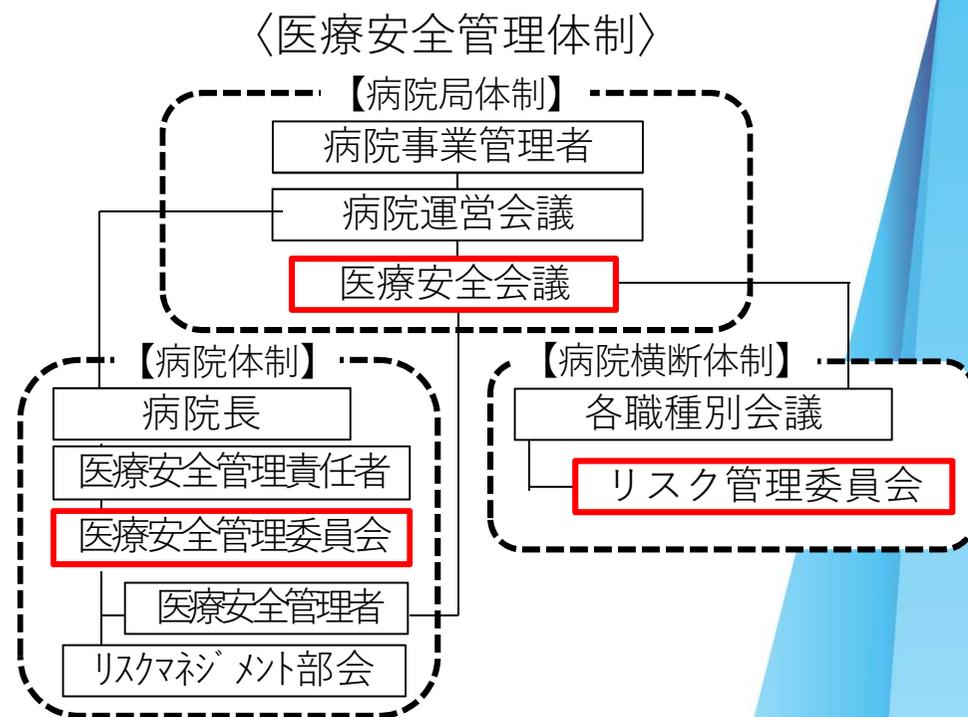
項目		尼崎	西宮	加古川	姫路	丹波	淡路	こども	がん	粒子線	陽子線
クリニカルパス 適用率(%)	R4	69.4	47.1	48.6	45.3	33.7	50.0	37.1	65.2	100.0	100.0
	R5	70.8	56.9	52.9	50.3	37.5	36.3	43.5	64.9	96.9	100.0

(2) 医療安全対策等の推進

- ① 医療安全に関する会議・研修会の開催など、病院局と各病院が一体となって、組織的に**医療における事故の発生防止**に取り組み、安心・安全な医療を提供する。

〈R5実績〉 医療安全会議 3回
医療事故防止研修会 82回

- ② 外部評価機関による評価の受審・更新に努め、医療の信頼性向上を図る。



II. 変革する医療への的確な対応

13

1 地域医療構想・地域包括ケアシステムへの対応

- ① 「兵庫県地域医療構想」等を踏まえ、各病院の地域性や専門性に応じた高度急性期・急性期、回復期、予防医療を提供する。
- ② 医療や介護が必要な状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、地域が一体となり住まい・医療・介護・予防・生活支援を提供していく「地域包括ケアシステム」の構築を支えるため、医療福祉相談員の増員等による入退院調整機能の強化や後方病院、保健・福祉等の関係機関との連携強化を推進し、**患者の在宅復帰・地域移行支援等**の充実を図る。

2 平時を含む新興感染症への対応

- ① 県と締結する医療措置協定に基づき、新興・再興感染症発生時の病床確保等のシミュレーションや医療人材の育成に取り組む。
- ② **重症患者や特別な配慮が必要な患者への重点化**等、県立病院の役割を継続的に果たすため、健康福祉推進協議会への参画等により、医療機関間の役割分担と連携強化を推進する。

〈新興感染症発生時の県立病院の役割〉

	役割	病院
感染症指定医療機関	発生直後の患者受入	尼崎、加古川、丹波、淡路
協定締結医療機関	流行初期からの病床確保、患者受入	総合6病院、こころ、こども、がん
後方支援医療機関	回復患者の受入	リハ中、リハ西

II. 変革する医療への的確な対応

14

3 病院DXの戦略的展開

- ① 診療機能の高度化や医療安全の向上、働き方改革等への対応、患者サービスの向上を図るため、「県立病院DX推進プラン」に基づき、AI機能搭載Web問診や遠隔医療、医療費後払い会計システム等、これまでの**先行取組の成果の活用**や、医師等の勤怠管理システムの構築など全病院で**有用性の高いDXの取組**を進める。
- ② 医療機関を狙ったサイバー攻撃への対応として、データバックアップや不正アクセス防止対策の実施、BCPの充実等、**情報セキュリティ対策の強化**に取り組む。

〈主なDXの取組〉

	主要施策
診療機能の高度化・ 医療安全の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIを活用した放射線画像等の診断支援システムの導入拡大 ・ 診療科等に応じたAI機能搭載の問診システムの導入拡大 ・ 医療情報を共有したコンサルテーション等の遠隔医療の導入拡大 ・ バイタル機器から電子カルテへの測定値の自動取込の運用開始
働き方改革等への 対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師等の勤怠管理システムの構築 ・ 電子カルテとの連携等が可能なスマートフォンの配備 ・ 音声入力による電子カルテ記録システムの構築 ・ 院内搬送、配膳等のロボットシステムの実証実験
患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計手続きを省略する医療費後払い会計システムの導入拡大 ・ マイナンバーカードの読み取り装置等のデバイスの整備

【AI機能搭載問診システム】



【AI画像診断支援システム】



Ⅲ. 収支構造の最適化

15

1 経営状況の概要

令和5年度は、はりま姫路総合医療センターのフルオープン等により医業収益は増加したものの、**コロナ空床補償の減**、物価高騰等による材料費・経費を中心とした**コストの増**に加え、コロナ後の**受療行動の変化**等により、病床利用率がコロナ以前まで回復せず、収支が悪化している。

令和6年度は、病床利用の回復を見込み、経営改善対策の着実な実施に努めるものの、各種費用の増加傾向は続き、経常損益は引き続き赤字を見込んでいる。

〈業務量〉 (単位：%、円、人)

区分	R4決	R5決見	R6当初
病床利用率	74.8	78.6	83.4
入院単価	77,967	78,538	80,679
外来患者数(1日)	7,037	7,179	7,401
外来単価	23,154	23,609	23,671

※H31年度病床利用率：81.4%

〈病院別経常損益〉

	尼崎	西宮	加古川	姫路	丹波	淡路	こころ	こども	がん	粒子線	陽子線	合計
R4決算	1,149	△144	1,356	△4,163	99	90	170	△49	△35	△955	△494	△2,976
R5見込	△1,315	△1,028	△1,134	△2,407	△870	△454	△179	△87	△279	△919	△418	△9,090
R6予算	514	△377	△798	△813	△970	159	△197	△261	△836	△853	△375	△4,807

〈経営状況(13病院)〉

(単位：百万円)

区分	R4年度 決算	R5年度 決算見込	R6年度 当初予算	前年度比較 (R6-R5)
経常収益①	161,131	163,101	171,887	8,786
入院収益	84,598	92,746	100,998	8,252
外来収益	38,198	39,809	41,125	1,316
一般会計繰入金	16,391	16,264	16,825	561
コロナ空床補償	9,692	1,140	-	△1,140
その他収益	12,252	13,142	12,939	△203
経常費用②	164,107	172,191	176,694	4,503
給与費	79,265	81,211	82,502	1,291
材料費	44,012	47,885	49,209	1,324
経費	27,130	27,641	29,430	1,789
その他費用	13,700	15,454	15,553	99
経常損益③(①-②)	△2,976	△9,090	△4,807	4,283
特別利益④	2,307	274	44	△230
特別損失⑤	7,871	601	1,436	835
純損益③+④-⑤	△8,540	△9,417	△6,199	3,218

(単位：百万円)

III. 収支構造の最適化

16

2 抜本的な経営改善に係る取組

- ① 令和6年度以降も経常赤字が見込まれ、**更なる収益の確保と費用の抑制**が喫緊の課題となっている。
- ② 経常赤字幅の縮減に向け、圏域ごとの医療需要を考慮した上で、適切な役割を果たすため、病院経営、企業経営、運営実務の専門家で構成する「**県立病院経営対策委員会**」を設置し、委員会からの意見も踏まえながら、更なる経営改革の取組を検討・実施する。
- ③ 粒子線医療センターは、「**県立粒子線医療センターのあり方検討委員会**」を設置し、経営赤字の解消に向けた今後のあり方検討を行う。

〈県立病院経営対策委員会 開催状況〉

区分	日程	議論の内容
第1回	7月12日	県立病院全体の経営状況と今後の収支見込 各病院の診療機能と経営上の課題
第2回	9月11日	各病院の収支改善策についての意見交換・議論等

〈県立粒子線医療センターのあり方検討委員会 開催状況〉

区分	日程	議論の内容
第1回	6月4日	施設や患者、経営状況の現状及び施設開設後の環境変化の説明 検討すべき課題、論点の整理
第2回	9月2日	粒子線医療センターの経営対策についての意見交換・議論等

Ⅲ. 収支構造の最適化

17

(1) 収益の確保

DPC対応力の強化による診療の効率化・均質化・標準化の実施や診療機能に見合った収益の確保を図るとともに、各病院の実情に応じた経営改善対策を順次実施していく。

(2) 費用の抑制

病院間ベンチマークシステムの活用や県立病院のスケールメリットを活かした診療材料調達など材料費の適正化、委託業務見直しによる経費削減、医療機能に見合った人員の適正配置等、各種コストの節減を図る。

〈各病院の主な取組〉

病院	主な取組
尼崎	刈刈パス推進の取組等によるDPC対応力の強化、PFMの拡充
西宮	手術室稼働率の向上や患者増の見込める診療科への病床配分
加古川	外傷系2次救急患者の受入れ促進
姫路	経営基盤の早期安定化に向けた患者の確保、医療機関訪問等による地域連携強化
丹波	回復期リハビリテーション病棟の安定稼働
淡路	刈刈パス推進チームによるパス見直し・適用率の向上、急性期充実体制加算の取得
こころ	精神救急医療の更なる推進、地域医療機関等との連携強化
こども	がんゲノム医療の充実等による小児がん医療の充実
がん	がん患者リハビリテーションの強化、バイオシミラーへの切替促進
粒子線	紹介元病院への周知や、患者対象の相談会開催等の積極的広報の展開
陽子線	こども病院と連携した小児がん患者の受入促進

III. 収支構造の最適化

3 適正な設備投資・施設管理

- ① 高度医療機器の整備をはじめとする設備投資は、**必要性や採算性、整備年度の平準化を考慮**して計画的に実施する。
- ② DXの取組や医師の働き方改革プロジェクトチームにおける議論の結果を踏まえ、より**効果の高い機器から優先的に導入**する。
- ③ スケールメリットを活かした一括発注・一括保守等、調達・維持コストの縮減を実施する。

4 一般会計負担の考え方

地方財政計画及び地方公営企業繰入金通知に基づき、診療報酬で賄うことが適当でない不相当経費、診療報酬のみでは採算が取れない困難経費について、安定的かつ継続的に一般会計繰入金を確保するとともに、地方財政計画や繰出基準を踏まえた見直しを適時・適切に実施する。

〈一般会計繰入金〉

(単位：百万円)

区分		R6	区分		R6
不 適 当 経 費	看護師確保対策費 (院内保育事業運営損費等)	192	困 難 経 費	高度医療経費 (集中治療室運営損費等)	5,490
	救急医療対策費 (救命救急センター収支損費等)	3,286		特殊医療経費 (精神病棟運営損費等)	3,138
	保健衛生行政経費 (感染症病床運営損費等)	635		建設改良経費 (企業債利息の一定割合)	577
	共済組合追加費用	867		基礎年金拠出金	2,243
	その他	262		小計	11,448
	小計	5,242		一般会計施策に伴うもの	135
収益的収支			合計		16,825
資本的収支 (企業債の元金の一定割合)					7,682

IV. 運営基盤の強化

19

1 医師・看護師等の県立病院を支える医療人材の確保・育成

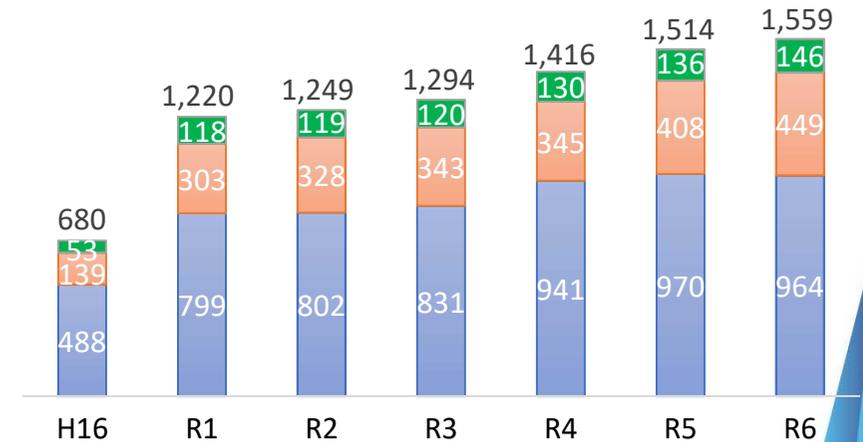
(1) 医師確保対策の推進

優秀な医師の確保・育成や特定地域・診療科における医師不足の解消を図るため、医師育成システムの構築や研修体制の充実、勤務環境の整備等、**総合的な医師確保対策を推進**する。

〈医師の確保・育成に向けた主な取組〉

	内容
充実した臨床研修プログラム等の実施	県立病院のスケールメリットを活かした臨床研修医・専攻医向けの各種研修・育成プログラムを提供
特定地域・診療科医師の確保	修学資金制度等を活用し、地域医療を担う医師や特定診療科の医師確保対策を推進

〈医師数の推移〉 ■ 正規 ■ 専攻医 ■ 研修医 (単位：人)



項目	R4	R5	R6
臨床研修医採用数	70人	74人	75人
専攻医新規採用数	98人	97人	105人
救急医育成プログラム参加医師数	34人	39人	42人
麻酔科専門研修プログラム・ 麻酔科医総合研修システム参加医師数	39人	36人	40人

IV. 運営基盤の強化

20

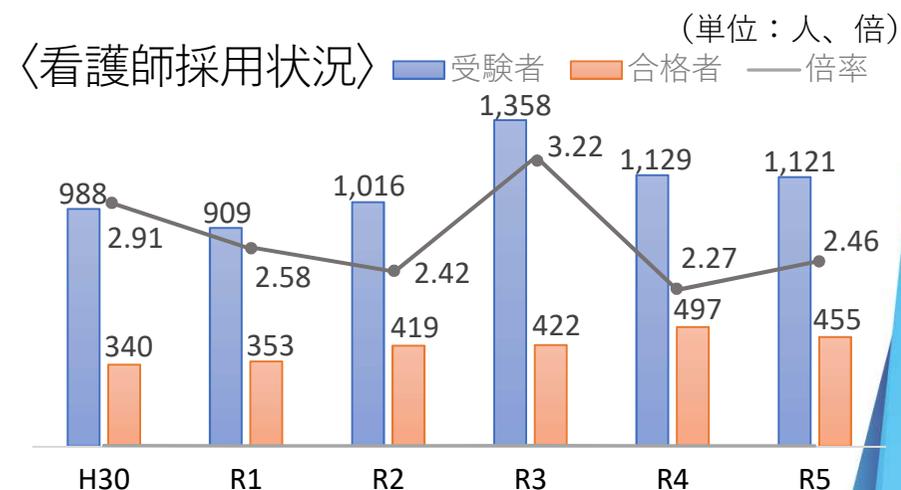
1 医師・看護師等の県立病院を支える医療人材の確保・育成

(2) 看護師確保対策の推進

看護師の地域偏在を解消し、各病院の実情に応じた体制を確保するため、看護師の需給状況を考慮した採用試験の実施等、**多様な看護師確保対策を推進**する。

〈看護師の確保・育成に向けた主な取組〉

項目	内容
需給状況を考慮した採用試験	新卒学生等の動向を踏まえ、複数回・複数会場にて採用試験を実施
認定看護師等の育成	認定看護師や特定行為看護師の養成派遣研修制度、他の県立病院に派遣する長期研修制度等を実施



項目	R3	R4	R5
看護師修学資金の貸与者数	70人	74人	75人
認定看護師等養成研修への新規派遣人数	10人	15人	14人

(3) 専門的人材の確保

医療の高度化・専門化やICTの高度化等の医療を取り巻く環境変化に迅速かつ的確に対応するため、求められる専門性を備えた職種・人材の確保に取り組む。

IV. 運営基盤の強化

21

2 働き方改革の推進

- ① 「医師の働き方改革PT」の検討結果を踏まえ、タスクシフト・タスクシェアや業務効率化、労務管理の適正化等に取り組み、**医師の時間外労働の縮減**を図る。
- ② フレキシブルな勤務形態の検討やDXによる業務効率化等、発現効果が高く実効性のある取組から順次進め、全ての職員にとって働きやすく**魅力ある職場環境の整備**を推進する。
- ③ 職員一人ひとりが高い倫理観に基づき誠実かつ公平・公正に業務を行い、組織力を向上させるため、「兵庫県病院局コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンス意識を向上させる取組を検討する。

〈兵庫県病院局コンプライアンス委員会 開催状況〉

区分	日程	議論の内容
第1回	5月30日	現状報告、取組の方向性の検討
第2回	7月29日	コンプライアンス指針（案）の検討 ・コンプライアンス向上により目指す姿（目標） ・職員の行動規範 ・コンプライアンス推進体制 等

IV. 運営基盤の強化

22

2 働き方改革の推進

〈医師等の働き方改革に向けた主な取組〉

	内容
タスク・シフト／シェアの推進	医師事務作業補助者や看護補助者などの人材確保 特定行為看護師の育成、特定行為の実施
負担軽減・業務の効率化	患者や家族への病状説明の勤務時間内実施 複数主治医制、休日当番制の導入 AI問診、AI画像診断等の導入
労務管理の適正化	ICカードによる勤怠管理システムの拡充 コンプライアンス指針の策定
勤務環境の改善	育児中の医師の短時間勤務制度の拡充 育児部分休暇の取得可能期間の拡充 大学からの医師派遣事業との連携
意識改革・風土改革	院長等による定期的な情報発信 患者や家族への啓発・協力依頼等

【医師の働き方改革啓発ポスター（丹波）】

兵庫県立丹波医療センターでは、
医療者の働き方改革への取組を進めています。

「医療者が健全に効率よく働き、
診療を受ける皆様が満足できる医療を目指して」

▼取組内容

- 医師による症状の説明は、原則平日9時～17時30分の対応とさせていただきます。（※緊急時等はこの限りではありません。）
- 症状説明や処置を主治医以外の医師が担当する場合があります。
- 夜間、休日は、主治医と連携して主治医以外の医師が対応する場合があります。
- 当直翌日の業務内容に配慮した勤務体制の見直しを行っています。
- 看護師と看護補助者が協働して患者ケアを行っています。
- 病状が安定した患者さんは、かかりつけ医で診療を受けられることをお勧めしています。

兵庫県立丹波医療センター 院長

IV. 運営基盤の強化

23

3 患者満足度の向上

- ① 待ち時間の負担軽減や療養環境の向上に資するシステムの導入等、利便性を高める取組を推進する。
- ② 患者説明・相談機能の充実等、患者の立場に寄り添った取組を推進する。
- ③ 患者意識調査や病院運営懇話会等により、患者の意見を適切に病院運営に反映させる。

〈患者の利便性を高める取組〉

	内容
患者呼出機、アプリ導入	診療時間が近付くと患者へ通知し、待ち時間の負担軽減等を図る
医療費後払い会計システム	クレジットカード登録により、診察後の会計手続き無しで決済が可能
患者向けWi-Fi環境の整備	病棟にWi-Fi環境を整備し、入院患者へ快適な療養環境を提供
きょうだいルーム	入院患者の兄弟姉妹を一時的に預かり、患者家族の面会を支援

【患者呼出機】



【患者サポートセンター（尼崎）】



〈患者の立場に寄り添う取組〉

	内容
がん患者等への相談支援	治療や療養生活、就労、外見の変化等に関する相談支援を実施
入退院支援センターの設置	入院申込みや入院前に必要な検査の予約、入院生活や必要な手続き等の説明、退院後を見据えたサポートを行う部門を設置